

センターだより

平成30年11月29日 No.63
東濃西部少年センター TEL23-3455 FAX26-8813

所 長 加 納 昭 仁
指 導 主 任 坂 井 正 昭
事 務 柴 田 弥 生

3地区合同研修会

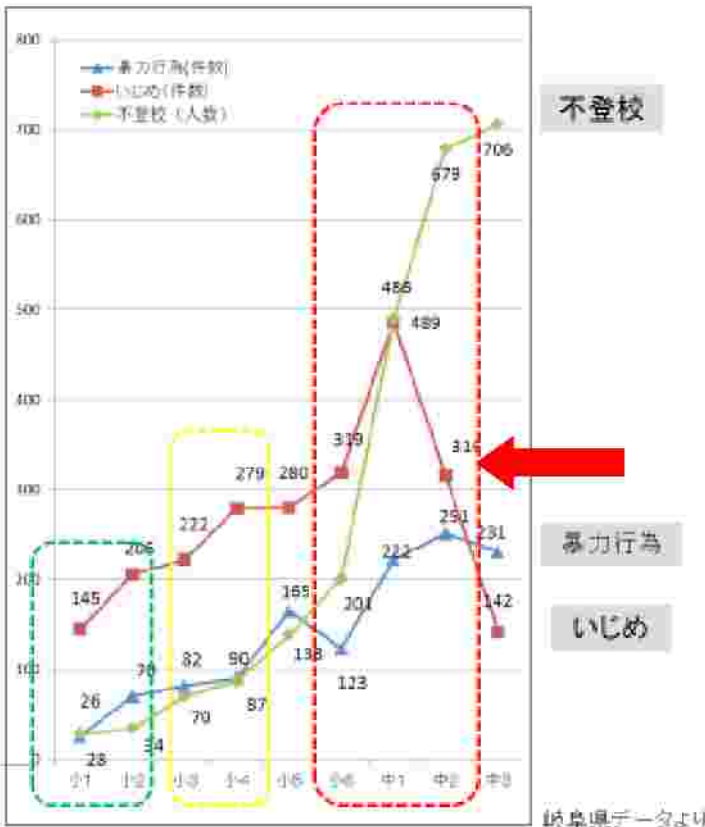


10月6日(土)にセラトピア土岐の大会議室において3地区合同研修会を行いました。

講師に岐阜県教育委員会義務教育総括監の服部和也先生をお迎えして、「どの子ども幸せになるために生まれきた」～青少年が背負う現実と大人の役割～という演題で1時間弱の講話をいただきました。

子どもの「命」と向き合い後回しにできないことがあると気付かれ、義務教育段階の子どもに何が起きているかということで、大きく3点挙げられました。それが、「暴力行為」「不登校」「いじめ」です。岐阜市教育委員会や岐阜県教育委員会で、さまざまな立場から教育行政に携わってみえたからこそ、具体的な数値データをもとに「暴力行為」「不登校」「いじめ」という問題の現状やその背景について詳しく話していただきました。

「暴力行為」の低年齢化、「不登校」の長期化、「いじめ」の増加といった傾向があり、背景には発達障がい、精神疾患、感情のコントロールが苦手、コミュニケーションがうまく取れないといったことがある。そして、左グラフにあるように「暴力行為」「不登校」「いじめ」といった問題が、思春期年齢期の小学校6年生から中学校2年生で大きく表出している。しかし、問題の出始めは小学校3・4年生頃でできるだけ早く手を打っていくことの大切さを強調してみえました。居場所を求めさまよい続ける少年、愛着無きままに自己を確立できない少年、ロールモデルとなる大人に出会っていない少年、迷える少年に、我々大人が「ほどよい関係」を築いていくことが大切であるとまとめられました。



11月10日(土) 多治見駅での「子ども・若者育成支援強調月間」啓発活動

早朝、9時30分のオープニングセレモニーから活動がスタートしました。今年は、多治見西高等学校附属中学校ギター部の演奏、多治見西高等学校生徒会の司会進行と若者の力で会の運営に携わってもらいました。

会の中で、「若者代表あいさつ」を多治見西高等学校2年生の小島啓栄さんが堂々と行ってくれました
その内容を紹介します。

支えよう輝くひとの夢みらい



若者代表あいさつ

内閣府は、この11月を国民運動の一層の充実や定着を図ることを目的とし、「子ども・若者育成支援強調月間」と定め、関係機関・団体に対して積極的な取り組みを促しています。これを受け、私たちも広く市民の理解と協力を呼びかける啓発活動に取り組みます。

これからの時代をつくるのは、私たち若者です。今後より良い未来をつくるためにも、大人に支えてもらうだけでなく、私たち自身が自立するとともに、積極的に社会に働きかける、その行動が求められています。

「街を元気に、街をよりよく」これが私たちの願いです。

今年は、多治見西高等学校附属中学校のギター部や市内のそれぞれの高等学校のMSリーダーズと中学校のMSJリーダーズが、この活動を盛り上げていきます。

このあと、少年センターの少年指導員の方々と、チラシの配布をすることを社会貢献の第一歩として頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

多治見西高等学校 2年 小島 啓 栄

古川雅典多治見市長様をはじめとして多くの方々に来賓としてご出席いただきました。



多治見市長

多治見警察署生活安全課長

JR多治見駅助役

東濃子ども相談センター所長

東濃県事務所振興防災課青少年育成専門職

多治見駅前交番長

古川 雅典 様

亀山 真弘 様

片桐 孝政 様

伊佐地常範 様

安田まきえ 様

須田亜希子 様

多治見西高等学校附属中学校ギター部の演奏



「子ども・若者育成支援強調月間」
啓発活動への参加者

高校生徒	40名	中学生徒	30名
高校先生	7名	中学先生	7名
少年指導員	23名	来賓	7名
少年センター所員			3名
総勢117名の参加をいただきました。			

啓発活動



瑞浪市子ども・若者育成支援強調月間における啓発活動の様子



平成30年11月11日(日)

この日は、瑞浪市の取り組み最終日として瑞浪中央公民館で午前11時から瑞浪・土岐・明世地区の取り組みとして実施されました。水野光二市長をはじめとして町民会議関係者や市内3高等学校のMSリーダーズなどの参加で行われました。

土岐市子ども・若者育成支援強調月間における啓発活動の様子

平成30年11月15日(木)

この日は、土岐市の取り組み最終日としてJR土岐市駅西側に新設された駐車場で午後4時から開会式を行い、その後駅前啓発活動を行いました。山田恭正教育長をはじめとして保護司会・更生保護女性会や市内3高等学校のMSリーダーズなどの参加で行われました。



平成30年度
全ての子ども・若者の健やかな成長を願う県民のつどい
岐阜県青少年健全育成県民大会

平成30年度の岐阜県青少年健全育成県民大会が、11月11日(日)高山市「高山市民文化会館 小ホール」において盛大に実施されました。

この大会において、東濃西部少年センターの少年指導員の方が、岐阜県環境生活部長表彰及び県議会議長表彰を受賞しましたので紹介します。

岐阜県環境生活部長表彰：優良少年補導委員等表彰

佐竹 貴行 さん(多治見市)

県議会議長表彰：優良少年補導委員等顕彰

平岡 初男 さん(多治見市)

林 計男 さん(多治見市)

沢 登京子 さん(多治見市)

渡辺 雅司 さん(多治見市)

河村 昌孝 さん(多治見市)

小栗 計久 さん(瑞浪市)

関市少年センターだよりの紹介

『「みちびき」第54号 平成30年10月1日』から

あいさつによる安心安全なまちづくり

8月の学校での授業がすでに始まりました。青パトで巡回していると下校している小学生に出会うことがあります。彼らに「こんにちは、気をつけて帰ろうね。」と声をかけ、元気をもらっています。元気な声の「こんにちは」が返ってくると、夏の炎天下では涼風が心地よく吹き抜けた感じになります。中には、「暑いから、車に乗せてって。」おねだりをされることもあります。・・・

どの地域の子どもたちも、こちらから声をかけると元気なあいさつが返ってきます。彼らの「こんにちは」は、「おじさん、今日もがんばりましょう。」と励ましてくれているようでした。

「あいさつの力」である「あいさつ力」はついていきますか。つけておきたい力の1番目にあげたい力です。あいさつは相手とのコミュニケーションを取る上で、欠かすことのできない話し始めのきっかけになります。ですから、あいさつをしても返ってこないが無視されたようで寂しい気持ちになります。

初対面だって「こんにちは」で打ち解けることができ、けんかしても次の日の「おはよう」から仲直りすることができます。新入社員がその研修の中で真っ先に身につけなければならないことは「あいさつ」だと聞きます。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」は単なるあいさつとしての言葉だけでなく、社会的な「絆」を得るためにも重要な言葉です。相手との関係の中で、あいさつは魔法の言葉だと言えます。でも、うまくあいさつができない子どももいます。大人があいさつしている姿を見て、子どもはあいさつの仕方を学びます。ご近所の方とのあいさつは、子どもといっしょに生活する場だからこそ大切です。



平成30年度 東濃西部少年センター 声かけ活動の上半期実施状況

(1) 月別の声かけ状況

活動日数の小計欄・合計欄は夏休み夜間特別活動の重複日を差し引いています。

区分	年 別	4月	5月	6月	7月	8月	夏休 夜間 特別	9月	小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		活動日数	29年度	14	12	15	15	20	18	16	101	17	17	17	13	16
	30年度	15	16	17	17	20	18	16	109							
活動回数	29年度	28	30	33	32	32	31	31	217	32	33	32	30	33	33	410
	30年度	29	32	33	32	32	29	31	218							
活動人数	29年度	110	147	152	144	122	144	125	944	133	131	132	126	119	118	1,703
	30年度	111	152	156	155	135	134	123	966							
多治見	29年度	63	73	72	76	57	72	68	481	68	62	65	65	58	61	860
	30年度	57	75	77	78	68	72	58	485							
瑞浪	29年度	21	33	34	35	33	35	27	218	31	30	30	27	28	28	392
	30年度	30	31	33	28	30	34	28	214							
土岐	29年度	26	41	46	33	32	37	30	245	34	39	37	34	33	29	451
	30年度	24	46	46	49	37	28	37	267							
指導人数	29年度	2	2	0	1	2	6	16	29	0	2	2	0	3	1	37
	30年度	7	5	5	3	3	0	2	25							
男子	29年度	2	2	0	1	2	6	14	27	0	1	2	0	3	1	34
	30年度	6	5	5	3	3	0	2	24							
女子	29年度	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	3
	30年度	1	0	0	0	0	0	0	1							

(2) 行為別の指導状況

(単位：人)

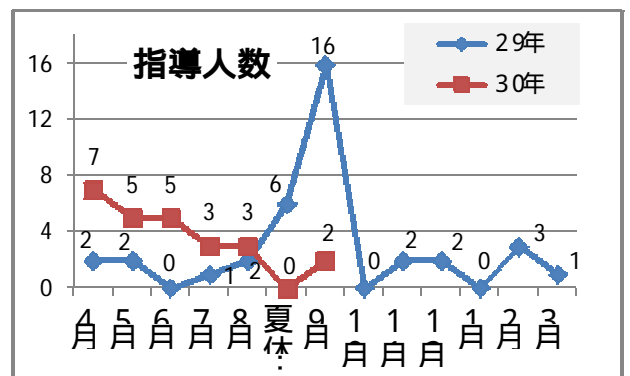
行為別 年度別 男女別	飲酒	喫煙	薬物乱用	粗暴行為	刃物等所持	金品不正要求	金品持ち出し	性的いたずら	暴走行為	家出	無断外泊	深夜はいかい	怠学	不健全性的行為	不良交友	不健全娯楽	迷惑遊興行為	迷惑座込み等行為	有害図書類携帯行為	自転車関連違反等	危険な遊び	合計
	29年4～9月	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	10	9
30年4～9月	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	13	0	25
男子	29年4～9月	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	10	9	27
男子	30年4～9月	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	12	0	24
女子	29年4～9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
女子	30年4～9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

- 1 少年の健全育成上、支障のある娯楽に興じる行為。(小・中学生のゲームコーナー立入りは保護者同伴が指導基準)
- 2 公園、空き地、川原等にて、花火やたき火をして、大声で騒ぐなど他人に迷惑をかける行為
- 3 駅前・駅売店・駅トイレ・コンビニ等にて、たむろ・居座り・飲食・化粧等するなど、利用者に迷惑をかける行為
- 4 自転車で二人乗り・並進、無灯火、携帯電話での片手走行、小学生のヘルメット未装着などの危険な行為
- 5 道路上にて、サッカー・ドッジボール・スケボー等の遊びをする危険な行為

(3) 学職別の指導状況

(単位：人)

学職別 年度別 男女別	小学生	中学生	高校生	大学生	未就学児	各種学校	有職少年	無職少年	合計
	29年4～9月	14	4	8	0	0	0	3	
30年4～9月	4	3	8	0	0	0	10		25
男子	29年4～9月	14	4	6	0	0	3		27
男子	30年4～9月	4	3	8	0	0	9		24
女子	29年4～9月	0	0	2	0	0	0		2
女子	30年4～9月	0	0	0	0	0	1		1



平成30年度 東濃西部少年センター 「声かけ活動」 上半期のまとめ

声かけ活動の実施状況については、5ページの「平成30年度 東濃西部少年センター 声かけ活動の上半期実施状況」を参照してください。

初めに(1)の月別の声かけ状況の表をご覧ください。

30年度上半期の活動日数は109日で、29年度と比べると8日増加しています。活動日数は、同じ日に2つ以上の班が活動していても1日とカウントしますので、実際の活動状況については、活動回数が指標となります。

上半期の活動回数は218回で、昨年度より1回増加しています。また、街頭での活動に当たっていたいただいた指導員の活動人数は966名で、昨年度の944名から22名増加しました。猛暑、台風の影響が少なからずあった中で、少年指導員には青少年の育成に向けてご尽力いただいています。

指導人数は、25名で昨年度の29名から減少しています。29・30年度と大変落ち着いた状況が継続しています。しかし、多治見警察署管内の今年1月から9月までの「少年非行の概況」を見てみると、非行少年の総数は前年同期と比べ6人(28.6%)増加しています。万引き、自転車盗が主な内容です。また、不良行為少年の総数は前年同期に比べ301人(52.9%)増加しています。喫煙、深夜徘徊が主な内容です。どちらも危惧する数値が出ていますので、今後も引き続き注意深く様子を見ていきたいと思えます。

次に、(2)行為別の指導状況の表をご覧ください。

指導人数の減少は、「危険な遊び」に顕著に見られます。しかし、「喫煙」「自転車関連違反等」で微増しています。昨年度0であった「暴走行為」が2とあり、今後の動向に注視していく必要があると考えます。

次に(3)学職別の指導状況の表をご覧ください。

昨年度と比べ、今年度は小学生が大幅に減少しています。有職少年・無職少年が増加しています。これは、バイク関連の「迷惑遊興行為」や「自転車関連違反等」が主たるものです。自転車関連での指導に関わって、当少年センターでは自転車の安全運転等についての啓発チラシを、3市の高等学校10校の生徒と特別支援学校の生徒による駅周辺での啓発活動で配布しています。



平成30年度 東濃西部少年センター 「相談活動」 上半期のまとめ

相談活動の状況について説明します。

電話相談は8件から12件と増加しましたが、メール相談が10件から3件と減少しました。相談合計数では、昨年度の18件から16件と微減しています。相談内容については、家庭での親子関係・養育に関する相談や交友関係に関する相談等でした。